

【1】小学部の基本的な考え方

1. 学部目標

小学部では、学部目標を『友だちの中で、よろこんで取り組む子』とし、具体的には、わかりやすく次のような表現にまとめ、実践している。

自分っていいな
友だちっていいな
何でもチャレンジ

この3点はそれぞれに独立したものではなく、相互に関連性をもつものとして考えた。そして、小学部教育を表すキーワードとして、私たちは常に念頭におきながら実践に当たっている。これには、小学部の教育に対する次のような願いが含まれている。

障害児（者）を巡る社会情勢の変化の中で、本校でも、児童生徒が生活の主人公として日々いきいきと生活する姿を大切にしようとしてきた。将来、やらされてではなく、自らが選び、進んで活動する主体的な姿を求めていくには、小学部の段階からしっかりとその基盤をつくっていくことが大切だと考えた。生活を楽しむための知識や技能も当然必要だが、小学部では、それ以前に自分が周りの人たちから愛され、自分の存在に誇りと自信がもてる、そんな心のベースづくりを第一にしたいと考えた。

そのためには、とにかく学校が楽しい。友だちや先生がいてうれしい。自分が認められる。思い切り活動できて満足できる。自信をもって行動できる・・・そういった学校生活を準備したいと考えた。そこでできたのが次の学部目標である。

- ・自分に自信をもち、自分が好きといった自尊感情やくじけない心を培うことは、将来の自立のベースになると思われる。(自分っていいな)
- ・友だちや先生と思いきり活動する中で信頼・共感・連帯の心を養うことは、社会の中で生活する上でとても大切だと考える。(友だちっていいな)
- ・達成感、成就感のある活動をたっぷりすることで、多少の失敗経験は乗り越え、またやってみようとする気持ちを育てることができる。(何でもチャレンジ)

2. 教育課程

小学部では右のような教育課程を編成している。身辺自立に関する指導は「日常生活の指導」の中でじっくり時間をとって行う。朝の活動の中では、身体の動きを中心にした「自立活動」の時間をとる。また、生活リズムを作るために月曜日から金曜日までは同じような生活の流れにし、2校時には合同学習の「音楽」や「体育」を、3・4校時には2時間続きでゆったりと「生活単元学習」に取り組めるようにする。「生活単元学習」は、各クラスごとに行うことも

曜日	月	火	水	木	金	土	(高学年)
9:05	朝の生活						
	朝の活動						
	朝の会						
9:50	音楽	体育	なかよし リズム	音楽	体育	生活単元学習	
	体 憩						
10:30	自由遊び						
10:45							
11:00							
11:30	生活単元学習	生活単元学習	生活単元学習	生活単元学習	生活単元学習	帰りの活動	下校
	給食・歯磨き						
12:10	清掃・自由遊び						
12:45							
13:30							
14:10	生活単元学習	生活単元学習	生活単元学習	クラブ	生活単元学習	帰りの活動	
			帰りの活動		委員会	帰りの活動	
14:30							
14:50	帰りの活動						
15:15	帰りの活動						
下校							

あるが、学部全体でダイナミックに行うこともあり、単元によって工夫している。

「生活単元学習」を主な研究の実践場面としたが、それに限らず学校生活全ての場面において、『楽しさ』や『意欲』を大切にしたい学習を展開するように努めた。

3. 「生活を楽しむ」の基本的な捉え方

(1) 「心の育ち」と「自分づくり」

学部目標の設定でも述べたように、小学部では、将来の人格的な自立の基礎を培っていきたいと考える。障害児教育の世界に限らず、心の育ちを十分理解しない対応が、子どもたちの心のゆがみや挫折を生み出した例はよく耳にする。「自分で自分を大切にしたい気持ち」「かけがえのない自分を誇らしく思う気持ち」（自尊感情＝セルフエスティーム）は、生涯にわたる自我形成や発達に不可欠なものであるという考えから、

私たちは、小学部の時期にこそ、子どもたちの発達や心の育ちを大切にしたいと、人格形成の基礎となる『心』を育てていきたいと考えた。もちろん人間が自立して生きていくためには、知識・技能の習得も必要である。しかし、小学部では、生活を楽しむ、自主的に生活していく上での知識や技能も大切にするが、むしろそれ以上に子どもたちの心の育ちに着目したいと考えた。

そして、私たちが指標にしたのが、「自分づくり」の考え方である。子どもたちの発達や障害を学び、その時期の特徴や心の動きを理解しながら適切な支援をしていくことで、子どもたちの発達を促したいと考えた。心の育ちを無視した教師主導の学習では、自分に自信をもち、いきいきと主体的に活動する児童は育たないと考えた。そこで、私たち教師はよき指導者というより、よき支援者・よき生活共同者として努めることにした。そして、教師自身も楽しむ姿を大切にしたいと考えた。

(2) 小学部の生活単元学習

以上のような基本的な考え方から、本校の生活単元学習は、各教科の関連性を重視し、授業の中に個人の教科的な課題をふんだんに盛り込むことを重視する進め方ではない。また、子どもたちの意欲重視の遊び単元を中心とした、遊びきる学習でもない。子どもたちの各教科や各分野（自立化・表現化・社会化）の課題も意識しながら、自分づくりの段階を考慮し、その段階に必要な事柄を教師とともにたっぷり経験することで、その子の発達を促していこうとする考え方である。勿論、子どもたちがいきいきと取り組むための「楽しさ」を含んだ学習を求めることはいうまでもない。

従って、小学部の生活単元学習は、子どもたちの発達段階や実態をふまえ、興味関心や季節・行事、保護者の願い等幅広い要素を考えながら、取り組んでいる。

(3) 個別の指導計画の活用

そこで大切になるのが個別の指導計画である。特に「自分づくり」の段階については、諸検査や観察の結果をもとに考察し、個々の発達を理解するように努めている。また、大学の先生のアドバイスを参考にしながら、その時期の心の育ちや支援の方法

を学部全員で検討している。作成することより活用することを目的とし、どう授業づくりに生かしていくのか、模索しながらささやかな歩みを進めているところである。

(4)「生活を楽しむ」授業づくり

『生活を楽しむ子をめざして』の大テーマのもと、合計7年間の研究が続けてきたが、サブテーマは「題材の選定と支援の工夫」から「個別の指導計画をもとにした授業づくり」と変わり、焦点の当て方が違ってきた。しかし、以前のサブテーマの時に確認したように、小学部の授業づくりの大きな基本方針は変わっていない。それは、

- ・自分らしく、その子が持っている力で今をよりよく生きることを大切にする。
- ・主体的に意欲を持って活動する（心から楽しむ）経験をたくさん用意する。
- ・「生活を楽しむ力」（生きる力）の基礎的・基本的内容をていねいに指導する

ことであり、満足感・充実感のある授業をつくり、子どもたちの思考の過程を大切にしていこうとしたことである。

楽しみながらいきいきと取り組む授業においてこそ、力はつき、それは将来の生活を楽しむ姿につながっていくものと考え。自分づくりの観点を大切にしながら、適切な支援をしていこうと試みると同時に、私たちは、とにかく子どもたちにとっても教師にとっても『楽しい授業』をつくっていきたいと考えた。

そこで私たちは「楽しさ」について考えてみることにした。資料を参考にしながら考えた「楽しさ」には、次のようなものが上げられる。

「楽しさ」とは・・・

- ①存在を認められる楽しさ（ぼくって愛されているんだな）
- ②共感する楽しさ（ねえ、〇〇だね！）
- ③好きな人と共にある楽しさ（一緒にいられていいな）
- ④したいことをする楽しさ（これがしたいからするぞ）
- ⑤思い切り活動する楽しさ（もっと、もっと）
- ⑥できるようになる楽しさ（やったー、できた）
- ⑦よりよいものに出会う楽しさ（こんなの初めて、すご〜い）
- ⑧役に立つ、よいことをする楽しさ（わたしのしたことが喜んでもらった）
- ⑨工夫し、つくり出す楽しさ（考えたものができたぞ）

*（参考資料 富山大附属養護学校 「子どもも教師も楽しくなる養護学校の授業づくり」 岸田勇雄氏の理論）

そして、上の「楽しさ」は、いくつものが関係しあい、子どもの楽しさはより深く、豊かな質へと高まっていくと思われる。

私たちは、授業づくりにおいて、この楽しさの要素をふんだんに盛り込んでいこうと考えた。そして、授業の中に「楽しい」要素をたくさん入れ込むために、私たちはよく次のような手法を取り入れ、教師も共に楽しみながら学習を進めている。

「楽しさ」を生み出すために	授業づくりの手法（支援）
<ul style="list-style-type: none"> ・教師の楽しい気持ちやメッセージを強いインパクトで伝えるために。やってみたいという意欲を高めるために。・かっこよさをまねたい気持ちをかきたてるために。 ・「やったー、できた」の体験ができるように。 ・作り出す楽しさや、うまくできた満足感が得られ、「もっともっと」の気持ちがわくように。 ・友だちや先生と共感し合えるように。自分の存在が認められる喜びがあるように。 ・「やったー、できた」の気持ちになるように。思い切り活動でき、じっくり取り組んでつくり上げる喜びがあるように。 ・したいことができる楽しさがあるように。 ・好きな人と一緒にできる楽しさを感じ、安心して喜んで取り組めるように。 ・役に立つ喜びが感じられる。大きくなった自分に気づき、自分がいとおしく思えるように。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かっこいい、あこがれのキャラクターが現われ、パフォーマンスをしたり、モデルを示したりする。 ・子どもたちが取り組んだ結果、どころんでもよいものができるような教材の準備や場の設定をする。 ・できたことをみんなで認め合い、しっかりほめる。 ・子どもたちが今できること、ちょっと努力すればできることを教材にし、活動の時間をたっぷり取る。 ・取り組む前に、自分で選べる場面をつくる。 ・好きな友だちや先生と一緒に活動できるような配慮をする。 ・小さい子のお世話ができる児童には、授業の中でそのような場面を自然につくっていく。

(5) 「楽しさ」の質の向上を願って

先にも上げたように、「楽しさ」にはいろいろな要素がある。そこで私たちが求めたものは、短絡的で一時的なものではない。子どもたちの心を揺さぶり、真から喜びと誇りに満ちたものであり、それが、ひいては自分づくりや発達を促していけるものでありたいと思っている。その「楽しさ」が広がりや深まりを見せた時、本当の意味で子どもたちの表情はいきいきと輝き、それは私たちの願う「楽しい授業づくり」「生活を楽しむ授業づくり」が成功した証だとも考える。

この研究の評価として、一面では、そういった子どもたちのいきいきと取り組む姿や楽しい表情の分析をしていかねばならないと思う。

(小坂祥子)